

令和3年度 学童クラブ事業年間活動報告書

京都市修徳児童館

	活動の基本目標（指針）	主 な 取 組 名	成 果 と 課 題
生活援助機能	安全・衛生の確保	5時帰り 交通安全の取組	<p>公道では安全に歩き、帰宅するようにと指導している。帰路でふざける子がいるため、安全に帰るよう保護者の理解と協力が必要のため、保護者への連絡・相談をした。親子で学校から児童館へのルートと自宅への帰宅ルートを歩いて練習することをお願いした。</p> <p>帰宅する人数が少人数のため、グループをつくりにくい状態にある。個人で帰宅する力をつけていくための働きかけが必要。今年度は交通安全教室を実施し、実際に児童館から自宅へ帰る5時帰りの4つのコースを、下京警察署の交通課の方と一緒に歩いてもらい、気を付けるポイントの指導をしてもらった。</p>
	健康の管理・情緒の安定	手洗い消毒の励行（石鹸 消毒液の使用） 感染症予防・感染症対策 新型コロナウイルス感染症対策として あいさつ運動	<p>子どもたちの中で習慣化していくよう、帰ってきたら声掛けをするよう大人スタッフも意識をする子どもたちに自分の体を自分で守るという意識を育てると共に、感染症拡大防止への取り組みを身に付けさせていく。手洗い消毒を促した。また児童館内の消毒作業を子どもたちと一緒にすることで、意識啓発にもつながった。帰館時の挨拶（ただいま。～します。）はおおむねできるようになったが、丁寧な行動とあいさつの意味合いを考えさせるようにしたい。</p>
	基本的生活習慣の確立	グループ活動  物の管理・取扱いについて	<p>長期休暇中に、せんだんホールをお借りして、30人規模でみんなあそびを実施した。高学年が低学年の子ども達をうまくまとめて、みんなで楽しく過ごすために、あそびを企画したり、片付け作業なども頑張ってくれた。放課後は時間が少ないため、グループ活動を継続的に実施するのに工夫が必要に感じる。暫定的に個人ロッカーが一人一つづつ確保されていない状態ではあるものの、荷物やもちもの紛失・忘れ物が多い。公共のものを大事に扱うということを教えていきたい。</p>
	社会生活技術の獲得	時間の使い方の選択・決定と後片づけの励行  多彩な子どもたちとの遊びを通じて関わり	<p>放課後の時間の使い方を自ら決め、後片付けに取り組むことを大事にした。今後も継続を図る。子どもたちの現状・実情に合わせて、自分で考えて行動できるように、ある程度の道筋やルールを確定させていく必要がある。1日の流れをホワイトボードに示して、視覚的にわかりやすくした。小さなホワイトボードも多用して、次の予定等を細かく示して、子ども達が次の行動への見通しを持ちやすくした。</p> <p>仲良しの子が学童を欠席すると、遊ぶ相手が居ないと大人のところにやってくる子どもたちがいる。あそびの中で新しい友達関係を育てていく時間と場所、大人がうまくサポートできるようにする。そのために、子どもたちの状況の分析・働きかけの方針を決めて、運営をしていく。</p>
		館外活動	<p>感染症拡大防止という社会情勢の中、積極的に館外に出掛けていくという場面が作りにくかった。できる形で地域住民等とのかかわりをつくっていきたい。自然体験の機会をつくっていきたい。</p>
	子ども育成機能	生活体験の拡大	併設老人ホームやデイサービスとのふれあい交流
社会性の養成		他館との交流事業  あおぞらだがしやスペシャル	<p>京都やんちゃフェスタがオンライン上で動画の配信という形で行われた。動画を通じて、遊び方や過ごし方の参考にできた。下京区の4館でオニム交流会が実施できた。1年生から5年生までの児童が一緒にお出かけすることができ、他館の児童とも交流することができた。このような経験が子どもの成長に大切であることが実感できた。</p> <p>成徳学舎にて実施した。 普段かわりの少ない年齢・年代の人が一緒にいる空間をつくったことで、どのようにふるまったらよいかを考える機会になったと感じている。</p>
自立の促進と自主性の尊重		遊びの選択・決定と後片づけの励行 生活スケジュール  バースデー乾杯！	<p>自らが決め、遊び、後片付けに取り組むことを大事にした。今後も継続を図る。大まかなスケジュールを表示して、子どもたちに考えるきっかけを作った。土曜日など利用者が少人数の時は、どの部屋で遊ぶかなど、「自分たちで決める」という時間をつくった。</p> <p>誕生日のお祝いをした。 他の子どもたちにお祝いをしてもらうことで、学童クラブへの所属感が感じられたのではないかと感じている。お祝いの際に、子どもたちの意見を聞いた。乾杯のジュースを近くのスーパーまで買いに出掛けたりもした。</p>

	<p>グループ会議</p> <p>3年生企画・高学年お楽しみ会</p>	<p>学年で分けたグループで長期休み等はグループワークを実施した。子どもたちの中で目標が生まれたり、ルールをつくりその中で責任を考える機会になった。メンバーを固定せず、少人数でグループを作り、ミーティング形式でグループワークを実施していきたいルールづくり、自分たちで守る、ルールを変更するなど展開を見守るようにした</p> <p>自分達の”やりたい”を実現していくために会議を重ねて、企画・準備を頑張った。3年生は仲間意識が強まり、絆が強まる良い機会となった。高学年も中学生になってからの利用につなげる機会となった。</p>
<p>子育てに必要な情報の提供と交換</p> <p>子育ての仲間づくり</p> <p>子育てを支えるネットワーク形成</p> <p>子育て支援機能</p>	<p>学童クラブだよりの発刊（毎月）</p> <p>学童クラブ保護者懇談会の実施</p> <p>セコムメールによる情報発信</p> <p>連絡帳の有効活用（毎日）</p> <p>保護者懇談会</p> <p>プロジェクトチーム結成</p> <p>子ども支援センター・学校等とのケース会議や日常の相談</p>	<p>子どもたちの様子を伝えることに重点を置き、写真を多用して作成。行事の報告だけでなく、日ごろの様子を写真に収め、紙面に並べて発行した。感染症に気を付けながら、懇談会を実施。子どもたちの様子を伝えるとともに保護者同士の交流を図った。これまでのやり方にとらわれず、時代や社会の様子に合った方法を検討していきたい。（リモート保護者会など）</p> <p>学童からの連絡が確実に保護者に伝わり、書類などの提出がスムーズになった。</p> <p>出欠連絡などの連絡ツールとして役立っている。また、保護者の悩みや思いを聞き取り、職員とのやり取りの方法として活用された。子どもたちには毎日持ってくるものとしての習慣が根付くように関わりや声掛けをしていく必要がある感染症を予防するという観点から、大勢の利用を控えるような工夫をしていく。</p> <p>子どもの困りごとを相談する相手が、保護者の間で身近に作りやすくなったように感じる。児童館を知ってもらおう。学童クラブを利用している子どもの保護者同士の仲間づくりを応援するという意図で計画をしていたが、感染症拡大防止の観点から今年度実施は見合わせた。</p> <p>個別ケースについて地域の諸機関と連携、相談。</p>